

## インド

健康な森、健康な人々、気候変動プロジェクト  
西ガーツ北部の生物多様性保全と持続可能な生計支援  
現地からのお便り

2019年2月  
Applied Environmental Research Foundation (AERF)  
コンサベーション・インターナショナル

\* 本プロジェクトは、インドの地元 NGO である Applied Environmental Research Foundation (AERF) が実施します。

## 保全契約

Kalamabaste 村のコミュニティが保全契約の更新に合意し、今後 10 年間保全活動を継続できることになりました。コミュニティがより「儲かる」、補助金を使ったカシュー農園や土地の売却ではなく、保全を選んだということには大きな意味があります。Kalamabaste 村との保全契約で保全されるのは、互いに隣接する合計 504 エーカー（204 ヘクタール）の森林のパッチであり、多くの野生生物にとって重要な生息地の回廊になっています。さらに、今期、Talwade 村、Devade 村、Ujgaon 村とは、162 エーカー（65 ヘクタール）、102 エーカー（41 ヘクタール）、そして 4 エーカー（1.6 ヘクタール）の保全契約を結び、合計 772 エーカー（312 ヘクタール）の森林を長期的な保全管理に結びつけることができました。



Kalamabaste 村で保全契約に署名したコミュニティメンバー



Devade 村で保全契約に署名するコミュニティメンバー

### 生物多様性の調査

2018年の初めに保全契約を結んだ Khadi Kolwan 村と Devade 村の私有林の簡易的な生物多様性調査を行い、これらの森林が西ガーツの絶滅の危機に瀕する生物を守る上で重要な役割を担っていることを示すデータが集められました。例えば、Khadi Kolwan 村の調査では、20種の鳥類、12種の蝶類が見つかり、絶滅危惧種であるドール（イヌ科の動物）の糞を見つけました。



ドールの糞（左）と Khadi Kolwan の森を流れる清流

Devade 村では、69種の植物（内59種は樹木種）が見つかり、その内6種は、IUCNのレッドリストに記載されている種でした。Devade 村の森にはマンゴーの木も多く、オオサイチョウも頻繁に飛来します。



Devade 村のコミュニティ森林と生物多様性の様子

### バイオマスを使ったかまどの実演と販売

3つの村で、バイオマスを使った改良かまどの実演を5回行いました。100名程の村人が実演を見に来てくれました。合計、22個の改良かまどが村に届けられました。



村に届けられた改良かまど（左）と改良かまどの実演（中央、右）

### FAIRWILDで認証されたサイトでのビヒタキの実の採集

過去3年にわたる継続した努力の甲斐あって、認証されたビヒタキの殻に対する国際市場での需要が高まってきました。採取人のやる気を高め、そして採取からの収入を増加させることにつながっています。採取シーズンの初めの2ヶ月で、既に3,200キロの実を認証サイトで集めました。ビジネス化が保全と地元の生計向上に効果をもたらす良い事例です。



FAIRWILDに登録された採取人がビヒタキの実の採集(左)とビヒタキの実を乾燥する様子(右)

※画像および文章の無断転用はご遠慮ください。